

キク科 ニガナ属

ニガナ (苦菜)

Ixeridium dentatum (Thunb.) Tzvelev *subsp. dentatum*

自生環境

野原、林縁、土手 など

原産地

日本在来

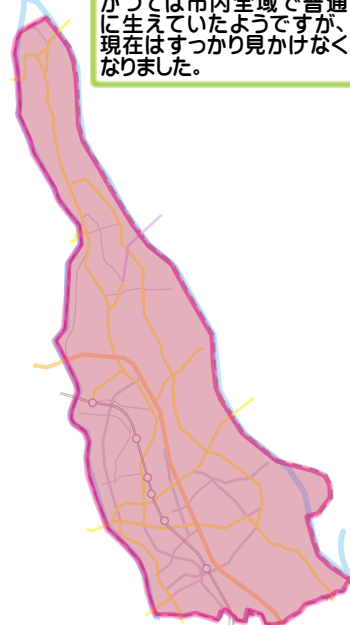
生育を脅かす要因



全国的に見るとありふれた草で、市内でもかつては普通に生育していたという記録が残っています。ただ、現在の市内ではあまり見かけなくなりました。都市化や農薬など人間活動の影響が大きいと考えられます。

市内の分布状況

かつては市内全域で普通に生えていたようですが、現在はすっかり見かけなくなりました。



特徴

- ☆ 山野の日当たりのよい場所にごく普通に生える多年草で、市内にもかつては普通に生育していたという記録が残っています。しかし都市化を著しく嫌うようで、現在市内ではすっかり珍しいものになりました。
- ☆ 茎や葉を傷つけると白い汁が出てきて、これには強い苦みがあります。苦菜の名前もここから来ています。ただし毒は無く、むしろ山菜として利用することができます。
- ☆ 春から初夏にかけて、直径 1.5cm ほどの黄色い花をたくさん咲かせます。花びらが5枚あるように見えますが、花びらのようなもの1枚1枚が舌状花と呼ばれる1つの花です。果実は綿毛がついていて、風の力であちこちへと運ばれていきます。

研究者泣かせのニガナ

ニガナの仲間には変異が多く、その分類学的な位置づけはとても複雑です。研究者間にも意見の違いがあり、学名にその苦悩の痕跡が見てとれます。例えばハナニガナ、その学名は省略しても *I. dentatum subsp. nipponicum var. albiflorum f. amplifolium* という長さです。これはニガナの亜種 (subsp.) のイソニガナの変種 (var.) のシロバナニガナの一品種 (f.) という位置づけを表しています。



春に黄色い花をたくさん咲かせる



舌状花

舌状花は5~7個程度

総苞は細長い

総苞
そうぼう

タネは
綿毛がある

花後の総苞は
下が少しふくらむ



ロゼットで越冬する



秋に花が咲くこともある

わぴちゃんねる 千葉県野田市の植物を動画で紹介!

<https://www.youtube.com/channel/UCJvrXBjegnWATWd-UZsNzCA>

